

教学之源流

荒谷俊

大學之道
在明明德



昭和己酉孟春

荒木俊馬



学祖荒木俊馬先生は、学生とともに、学び、遊び、議論を戦わせ、泣き、笑い、そして大いに酔った



京都産業大学学歌

荒木俊馬作詞
伊藤俊彦作曲

天地の闊けし時や神々の鎮まりませる

神山乃ま本山に産ぶ業場実勤はく

日送りまわれらるる人

次の代めわが日の本を擔いて立たむ

天の向伏す極み岩壁のさ壊す極み

有りとも有る全人類の幸福と平和の爲に

わが命 捧げて惜いぬ

現身の形造りにわれら勵まむ

銅鐵を身身體と鍊え黄金を精神と磨き

新珠の真理と実躬の剛健の意気高らかに

天翔る希世の宝

五大洲への洋に雄飛し行かむ



ロンドンでBBCの放送に出演 (1976.5)



ケンブリッジ大学で天文学者と (1976.5)



ワイツェッカー博士夫妻とともに (1974.11)



アポロ打ち上げ視察 (1975.7、ケネディ宇宙基地)
白のお髭が素敵 荒木先生

世界の頭脳と 親交を結ぶ



歴史学のトインビー博士夫妻とともに (1967.11)



ハーマン カーン博士 (中央) を囲んで。右端は若泉敬・本学教授 (1970.4)

「教学之源流」に 建学の心を映した時代



第一回入学式は京都会館で挙行。学舎は建設中だった



第二回入学式での宣誓書署名。詰襟の学生服の眼が学生生活への希望に輝く



「諸君、ありがとう。君たちとともに、この大学は生まれ育った。諸君は開拓者だ。」
第一回卒業式で語りかける荒木先生。いま、卒業生は10万人を超した

平安京の静けさをたたえる神山に 学ぶ熱気が渦巻いた



人類の歴史を解き明かすアーノルド トインビー博士来学。学生、教職員が講演会場にあてられた体育館（現在の10号館のところ）を埋め尽くした



開学直前の本館と本学周辺（上）
開学式会場（1号館）はコンクリートの
地肌剥き出しのままだった（左）



京都産大の 揺りかご時代



いまの正門入り口付近



当時の通学のバス乗り場